

平成28年度郷土を愛する心を育む教育についての取組

致遠館の由来

本校の校名は、1867年、鍋島直正侯が長崎に設けた「致遠館」に由来します。直正侯は、広く世界に目を向け、英語教育の必要性を感じます。そこで、フルベッキ先生を招いて、理科、工業、経済、法制など、時代の流れを見越した教育を行う稽古所を設立しました。自由な校風の「致遠館」で、最先端の学問を意欲的に学んだ生徒は、新しい日本を動かしていきました。本校は、時代を先駆けた「致遠館」の精神を受け継ぎ、様々な先進的教育を実施して、世界をリードする人材を育成しています。

- ・ 県立中高一貫パイオニア校
- ・ ICT利活用教育推進校
- ・ スーパーサイエンスハイスクール(H18~27)

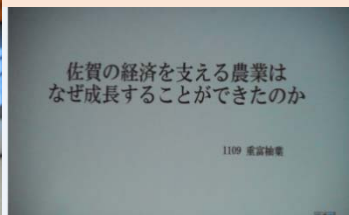


「致遠館」の鬼瓦

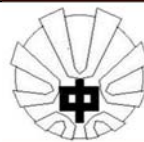
総合的な学習（エリアスタディ）

本校では、「総合的な学習の時間」には、体験学習・探求活動・情報教育を重視した「エリア・スタディ」を実施しています。

郷土佐賀や日本についての理解と誇りを育てるとともに、地球的な規模でものごとを考えて行動できる能力を育てるもので、中学校・高校の6年間を通して学習していきます。体験学習や探求活動、及び情報教育などを行います。



佐賀県立 致遠館中学校



〒849-0919 佐賀県佐賀市兵庫北四丁目1番1号
TEL 0952-33-0401 FAX 0952-34-1041
全学年 358名 (H28.5.1現在)



地域との交流

● 家庭クラブによる地域交流

年2回、特別養護老人ホーム晴寿園を訪問し、音楽部の歌披露や茶道部のお手前披露、手遊び等を通してお年寄りの方と交流しています。また、あおぞら保育園訪問では、読み聞かせ等、園児とふれあいます。

● 保育園実習

中学校3年生は、家庭科の時間に保育実習を通して園児とふれあいます。

致遠館の誇れるもの紹介



カリヨンの鐘が、致遠館の一日を見守ります。



校訓の3Cは、致遠館生の学ぶ姿勢を示します。

平成27年度郷土を愛する心を育む教育についての取組

致遠館中学校の特徴

本校は、致遠館高校との中高一貫教育の先駆けとして開校し、今年度で13年目を迎えます。校訓は、「Cultivate（自己啓発）」「Create（創造）」「Challenge（チャレンジ）」の頭文字をとって「3C」と呼んでいますが、英語で表現している校訓は全国的にもあまりありません。

中高一貫教育のメリットを生かしたカリキュラムや学校行事において、生徒一人ひとりが、自分の力を伸ばそうと生き生きと活動しています。

【中高共通の活動として】

- ・致遠館祭
- ・遠行
- ・英国語学研修（希望者）
- ・福祉施設訪問（家庭クラブ）などがあります。



佐賀県立致遠館中学校

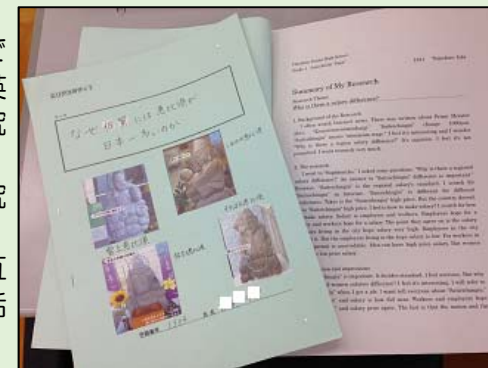
学校所在地 〒849-0919 佐賀市兵庫北四丁目1番1号

TEL 0952-33-0401 FAX 0952-34-1041

生徒数 1年生 120名 2年生 119名 3年生 120名

今年度（平成27年度）全体発表会で発表した中学1年生の3名は、すべて英語でスピーチしました。また個人の研究は最終的にレポート用紙にまとめます。1年生のレポートの1ページ目は、研究の要旨を英語で表現しています。

異学年合同の研究発表の発表は、お互いのよい刺激になります。質疑応答も活発に行われ、大盛況でした。



エリアスタディ（佐賀探求）

本校では、総合的な学習の時間に個人研究に取り組んでいます。1年生は「佐賀」2年生は「日本」3年生は「世界」と調査の枠を広げていながら、3か年で系統的に研究できるように、大テーマを設定して取り組んでいます。1年生では、佐賀の文化・地理・歴史・産業・経済・社会問題などについて、テーマを設定し、調査、探求、表現活動を行います。

タブレットを用いてインターネットの検索を行ったり、書籍や、現地調査、取材活動を行う中で、自分の課題解決に迫っていきます。2学期に全員による中間発表会、3学期に学年代表者による全体発表会を行って、探求活動の成果を披露しました。



職場体験学習（キャリア教育）

キャリア教育の一環として、中学2年生で取り組んでいます。将来の夢や関心の高い職業について、地域の事業所のご理解とご協力を得、毎年一日体験で実施しています。本校生徒は、およそ50の小学校から進学してきます。学校所在地の佐賀市内を中心に、さまざまな業種の事業所にお世話になり、業務内容だけではなく、社会人として必要な常識や資質、コミュニケーション力の重要性などを学ぶよい機会となっています。

